

2021年度 発達保障学校

~~~~~  
***SYLLABUS***  
~~~~~

(講義計画)

人間発達研究所

コース名 「入門の入門」コース	2021年度回数 3回	担当者 安藤史郎・武居誠・松永朋子
<b>授業の内容</b> 入職後3年くらいまでの方が対象のコースです。乳幼児期から成人期を対象とする方まで、グループトークもしながら学び合います。目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。そのような見方・考え方の入り口に立てることをめざします。ミニ講義を通して、発達や発達保障について基本的なことを学び、実践の楽しさや難しさについて、みんなで話し合しましょう。		
<b>授業の流れ</b> * 日程については、企画時の予定です。変更となる場合もあります 6月13日（日） 9:30～12:30 担当者自己紹介&参加者自己紹介 ミニ講義「発達の理解を実践に活かすって？」 ——事例を通して、みんなで学び合しましょう—— グループトーク① ミニ講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい グループトーク② 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい （年度当初） まとめ 担当者からの発言と意見交流 宿題 「次回までにこんなことをしてみよう！」 9月19日（日） 9:30～12:30 グループトーク 「これをしてみよう！」をやってみてどうだったかのわかちあい ミニ講義「発達を学んで？」 グループトーク① ミニ講義の「わからない・印象に残ったところ」のわかちあい グループトーク② 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい （年度半期を迎えて） まとめ 担当者からの発言と意見交流 宿題 「気になるニュースを切り抜こう」 12月5日（日） 9:30～12:30 グループトーク① 「気になるニュース」のわかちあい ミニ講義 「私たちの仕事と社会のつながりについて」 グループトーク② 仕事をしていて「楽しいこと」「難しいこと」のわかちあい （年度末・新年度にむけて） まとめ 担当者からの発言と意見交流		
<b>その他</b> 教育実践については、教員の参加が少なく、グループトークのテーマになりにくい状況です。 マイクとカメラを使って、お互いに顔を見ながら話し合えたらと思います。難しいようでしたら、チャットでもご発言ください。 日々の仕事にかかわって、「こんな話を聴いてみたい」などのリクエストをぜひ講師にお伝えください。可能な範囲で、講義部分でお話しできるようにします。		

<p>コース名 発達入門コース</p>	<p>2021年度回数 5回</p>	<p>担当者 高田智行</p>
<p><b>授業の内容</b></p> <p>「発達とは？」からはじまって、0歳から就学前までの発達の道筋を追いながら発達の基礎を学ぶコースです。発達は「～歳の発達の特徴は…」というように定点で捉えるのではなく、つながりの中で捉えることが大切で、そうすることでみえてくることがあります。そのみえてきたことを実践の中でどう活かしていくか、乳幼児健診や保育等の発達保障実践を例に学びを深めます。</p>		
<p><b>授業の流れ</b>（スケジュール・内容等の計画）</p>		
<p><b>第1回 6月 20日（日） pm</b></p>		
<p>講義1：発達といいますが…発達とは？</p> <p>保育や療育等の実践現場では、「発達」ということばを当たり前のように使うことがありますが、生活の中で「発達」ということばを使うことあまりありません。あらためて「発達」とはということなのかについて考えてみます。</p>		
<p>講義2：発達のしくみ</p> <p>「発達のしくみ」や「発達をどう捉えるか」について、田中等による「可逆操作の高次化における階層・段階理論」をもとに学びます。</p>		
<p><b>第2回 7月 18日（日） pm</b></p>		
<p>講義3：乳児の世界から幼児の世界へ</p> <p>乳児期から幼児期への「生後第2の新しい発達の原動力の誕生」から1歳半の発達の節を越え「1次元可逆操作」獲得までの発達について学びます</p>		
<p>実践1：乳幼児健診の実践を通して</p> <p>講義3の内容について、乳幼児健診における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p><b>第3回 8月 22日（日） pm</b></p>		
<p>講義4：対の世界をゆたかに開く</p> <p>1歳半の発達の節を越え獲得した「1次元可逆操作」の力がどのように「対の世界（2次元形成の世界）」を開いていくのかについて学びます。</p>		
<p>実践2：子育て支援の実践を通して</p> <p>講義4の内容を踏まえ、「対の世界をゆたかに開く」とはどのような事なのかを、子育て支援の実践を例に考えます。</p>		
<p><b>第4回 9月 19日（日） pm</b></p>		
<p>講義5：揺れながら自分をつくる</p> <p>対の世界（2次元形成）がゆたかに開いていくことが、4歳の発達の節を越え「2次元可逆操作」を獲得していくこととどのように関係しているのかについて学びます。</p>		
<p>実践3：保育の実践を通して</p> <p>講義5の内容について、保育所巡回相談における実践を例に学びを深めます。</p>		
<p><b>第5回 10月 24日（日） pm</b></p>		
<p>講義6：幼児の世界から学童の世界へ</p> <p>就学前のまとめの時期でもある「生後第3の新しい発達の原動力の誕生」について、9・10歳の発達の節を越えることを視野に入れながら学びます。</p>		
<p>講義7：これからの実践に向けて…あらためて「何のために発達を学ぶのか？」</p> <p>実践において、「発達」を学ぶことがどう活きるのか、そしてどう活かすのかについて考えます。</p>		

<p>コース名 実践にいきる記録の書き方</p>	<p>2021年度回数 5回</p>	<p>担当者 坂本彩</p> <p>ゲスト講師 竹澤清</p>
<p><b>授業内容・テーマ</b></p> <p>実践記録を書くこととていいことがあります。</p> <p>書くことが苦手と感じる人もいるかもしれません。伝えたいことを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。そんな人たちが一緒に学んで、実践記録を書き、「いいこと」を味わってみませんか？</p> <p>実践記録は「客観的事実を正確に書き写した」ものではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちの思いが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができると同時に、「自分たちがなぜこの実践に取り組んだのか」という自分たちの意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることにも繋がる重要なプロセスなのです。</p> <p>とはいえ、実践記録を書こうとするとき、そもそもどんな実践について書けばよいのか題材選びから悩む人も多いのではないのでしょうか。このコースでは、VTRを見て記録をとってみるワークなども取り入れながら、さまざまな視点を学び合うことも取り入れます。大切なことは、自分たちの実践に実践者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことにあります。そして、それをどのように表現するのか、目にした現象を実践者なりの“言葉”で語る力が必要になります。</p> <p>実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていくとともに、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのか。実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現する自分なりの“言葉”を見つけない人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p><b>1日目(6/26)：</b> 実践記録を書こうとしてみる</p> <p>映像を通して場面の切り取り方や子どもや利用者の姿の意味づけ方を考える</p> <p><b>2日目(7/31)：</b> エピソード実践記録を書いてみる</p> <p>書いてみたエピソード記録を共有し、いきいきした姿が思い浮かぶか体験する。 (伝わっているかな?)</p> <p><b>3日目(9/4)：</b></p> <p>竹澤先生の講義 書き方のツボを学ぶ →実践記録を書いてみる</p> <p><b>4コマ目：</b> 個別添削</p> <p><b>5日目(12/4)：</b> みんなで共有</p> <p>実践記録を読み合う</p> <p>記述の仕方、表現方法について感想を出し合う</p> <p>実践記録や実践の面白さについて語り合う</p>		
<p><b>&lt;2020年度の参加者の声より&gt;</b></p> <p>○記録を取り振り返ることは、子どもをよく見ることにつながり、仕草や行動、言葉の裏にある思いや意味に気づける感性を磨くことにつながるのですね。まだまだですが、大きな意味があることがわかりました。</p> <p>○記録をとることで、自分が意識化できていなかった働きかけの意図に気づけること、読んでもらい質問や感想をもらうことで、実践の意図を掘り下げて深めていけることも実感しました。子どもの事実とおとなの推測を区別すること、意図的な働きかけを記録すること</p>		

が、次の実践に生きる記録となることを体験を通して学ばせてもらいました。

○記録の書き方の学びだけでなく、皆さんの実践記録や感想を通して、子どもの見方や捉え方を確認することができ、やっぱりそれが大事！と、日頃のモヤモヤが解消され、とても勉強になりました。また、皆さんの実践記録は思いが深く、幼児期から成人、保護者の方まで、年代や立ち場を超えて、学ばせていただく貴重な機会となりました。

○私は、今まで記録を書くことに対し苦手意識があり、きちんと学ぶ機会も多分なかったと思います。ただひたすらその日あった出来事をつらつらと書いてみたり、面白いことがあったときは、その出来事をダアーツと書いて満足していたかも？ 後で読み返すと「何だこりゃ」と落ち込むことも多々あります。それに、今までは何か問題があったことばかりを中心に書いていたように思います。利用者さんの嬉しかったことや良い変化に重点をおいていなかった。勿体ない・・・

今回、初のZOOMにも挑戦し、離島に住んでいる私でも様々な事業所の皆さんと一緒に参加することが出来、学ぶことが出来ました。島には、都会ほどのサービスもなく、初めて聞く言葉もでてきて、「凄い人たちだな」とビビりながらも楽しく参加出来ました。皆さんの実践報告を聞き、場所は違うけどみんな思いは一緒！頑張ってるな～とパワーをもらいました。「記録に残すことが利用者さんが存在した証」という言葉を大事に、これからは利用者さんの姿を楽しみながら書いていけたらいいなと思います。(私もアップデートした！と感じれるように～)

台風で受講が危ぶまれたり、島中がコロナ騒動でソワソワする中、無事に学び続けることが出来て本当に良かったです。講師の先生方、一緒に受講された皆さんありがとうございました ^^

(世話人) 栗本葉子・山本翔太

<p>コース名 実践を学び合うコース</p>	<p>2021年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p><b>授業の内容</b></p> <p>最近の障害児の入所施設の入所理由は虐待や暴力からの擁護・保護が多いそうです。目の前の障害のある子どもたちの姿には、その背景にある家族との生活の時間や関わりなどが、その子の日常の姿にも大きく影響をしてきて、その子の姿を捉えていくことが複雑化・困難化してきている、でもそこを共有することなしに明日が拓かない」というのが実感ではないでしょうか。</p> <p>また、8050とその先の問題。知的障害者の実践現場では高齢化が進み、両親と共に生活してきたけれども、親御さんが亡くなってしまって新しい生活スタイルを模索しなければならなくなってきて、次どうしていくことが必要なのか悩んでいるという人も多く見られています。</p> <p>それぞれの実践現場では、それぞれなりに曲がり角にさしかかかっていて、どうしても問題点ばかりが議論されて、息がつまりそうだという声もまたよく耳にします。</p> <p>そういうときは、実践の話、目の前の彼女たちのいいところや、得意なところや、彼らしいところなどを、いつ、どこで、どういうときに、どんなタイミングでなどたくさんしましょう。レポートそのものはうまく書けていなくても、自分の実践がどうなのかについて、自分のことばで記し、語り、それをみんなと意見交流し、いろんな多様な視点や考え方に触れて元気をもらいましょう。</p> <p>このコースの前進の発達保障実践論コースでは、これまで若手の実践者であったり、ベテランの管理者であったり、教員であったり、保育士であったり支援員であったり、学童保育の指導員であったりと多様な参加者で構成されることが続いてきています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから、やや総花的な話になったりはしますが、その人の将来の姿や家庭での暮らしぶりが連想できたりして、支援の方向性が深まったりしてくることもあります。そうやって参加者が未来を考える中で元気になって、また明日子どもたちや仲間たちと明るく向き合うことに寄与できるコースだと思っています。</p> <p>できるだけみんなでレポートを出し合って、じっくりたっぷりその人のことを話し、意見交換や議論する中で、「気づき」が見られるようになれば、「ニヤリ」と得した時間にしていく、それが獲得目標です。人間が好きになるそんなコースにしたいですね。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p><b>第1回</b> 6月6日（日）pm 自己紹介、各職場・実践の状況、私の学びたいこと、 コロナ禍で学んだこと</p> <p><b>第2回</b> 9月5日（日）pm 実践報告① 実践報告②</p> <p><b>第3回</b> 10月3日（日）pm 実践報告③ 実践報告④</p> <p><b>第4回</b> 11月7日（日）pm 実践報告⑤ 実践報告⑥</p> <p><b>第5回</b> 12月5日（日）pm 実践をゆたかにするためには、何が必要か</p> <p>※予備日 2022年2月13日（日）</p> <p>※年度途中に、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください</p>		

<p>コース名 福祉政策コース</p>	<p>2021年度回数 5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p><b>授業の内容</b></p> <p>相談や教育や保育、高齢者や障害者を支える職場など、私たちの職場は、より困難さを増してきています。</p> <p>障害児者福祉の情勢を眺めてみると、コーディネーターによる相談機能の強化や緊急時の受け入れ対応・強化、体験機能の機能強化などが打ち出されたり、子どものところでは「障害児支援の適切なサービス提供体制の確保と質の向上」が提起され、前進面も多く見受けられていることと並行して、障害児の入所施設の在り方など次の報酬改定をにらみながら議論がはじめられています。一方で、者の場合は、定員20人の「ミニ入所施設（大型グループホーム）」の容認、「自立生活援助」「共生型サービス」が新設されて介護保険との統合が生まれ、障がいの軽い人たちは、「一人暮らし支援」という選ぶことのできない「安上がり」な生活が強められてきています。</p> <p>就労支援に関しても同じです。「就労継続支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行、就労定着の促進に向けた報酬の見直し」され、労働時間が長ければ長いほど単価が高い、また平均工賃が高ければ高いほど、報酬単価が高いしくみが持ち込まれています。また、一般就労に向けて、「就労定着支援」というサービスが加わりました。一億総活躍社会においては、集団での支え合いや協力の中でつけてくる力や働くことにむけて、働きたいと自らが願うための力を育む実践には見向きもしない方向へ突き進んでいます。</p> <p>確かに制度が改善されているように映ることもありますが、よくよく考えてみれば、ますます企業の論理の生産性による競争原理によって「生活しにくい」「生きる喜びが味わえない」「自己責任や家族責任」に切り替えられていく気配が伺えます。</p> <p>だからこそ、私たち実践者や支援者自身も悩む日々になっているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくために、このような情勢の中で、どういう眼を持つことが大事なのかが問われています。今日の障害児者福祉の制度変更に関わる議論をしていきたいと考えています。</p> <p>参加者の学習要求にも沿いながら計画を立てていこうと思っていますが、火問えば以下のようなことが論点に上がってきます。</p> <p>「我が事・丸ごと地域共生社会の実現、全世代型社会保障による障害福祉現場での課題と偏向」</p> <p>「強度行動障害者の地域での生活に必要なことについて」</p> <p>「医療的ケアが必要な子どもたちの地域生活 多職種連携による地域生活の現状と課題」</p> <p>「障害者施設の高齢化と重度化－どこで最後を迎えるか」</p> <p>「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」</p> <p>「介護保険と障害者総合支援法」</p> <p>「障害児入所施設の在り方 報告を読む 加齢児問題についてどう考えるか」</p> <p>「障害児における社会的養護の現状とこれからの方向性」</p> <p>「グループホームを考える」</p> <p>第1回目にそれぞれの問題関心を議論しながら、テーマを絞り込んで4回の議論を設定してすすめていきます。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p><b>第1回</b>10月17日（日） pm</p>		

**第2回** 11月21日（日）pm

**第3回** 12月19日（日）pm

**第4回** 1月23日（日）pm

**第5回** 2月27日（日）pm

※年度途中で、学会等の関係で日程の変更もありますので、ご承知おきください。



<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2021 年度回数 10回</p>	<p>担当者 荒木穂積</p>
<p><b>講義内容・テーマ</b></p>		
<p>本コースでは、田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習を、田中昌人らの著作や文献・資料に戻りながらすすめていきます。今年度は、幼児期の階層の5,6歳児（行動から思考へ、遊びの発展、自制心の形成など）の学習をすすめます。必要に応じて幼児期の階層3,4歳児および、学童期の階層7,8歳児も取り上げます。</p>		
<p>前半では、乳幼児期の発達の基礎的理解をすすめて行きます。今年度は、テキストとして森口佑介『わたしを律するわたし－こどもの抑制機能の発達－』（プリミエ・コレクション18）京都大学学術出版会、2012年を学習します。併行して幼児期の遊びの発達と集団・仲間関係の発達、話しことばから書きことばへの移行期の学習をすすめます。</p>		
<p>後半では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』」理論（『階層－段階』理論と略称）に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキスト田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』大月書店、1988年を学習します。併行して田中昌人『人間発達の科学』青木書店、1980年、『人間発達の理論』青木書店、1987年などの文献を手がかりに学習をすすめます。</p>		
<p>本コースでは、エキストラとして冬期に集中講義を計画します。今年度は、「実行機能」研究と実践との関係を掘り下げます。</p>		
<p>発達入門コース、発達研究の基本コースを修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人など、発達理論や実践に関心のあるみなさんの参加を期待しています。</p>		
<p><b>授業の流れ</b></p>		
<p><b>第1回目</b>：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論』の概要と幼児期の階層の第3段階である5,6歳ごろの発達特徴（解説）と発表分担(前半)の決定</p>		
<p>(1) 可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか (テキスト1およびスライド)</p>		
<p><b>第2-5回目</b>『わたしを律するわたし－こどもの抑制機能の発達－』（テキスト1）を学ぶ</p>		
<p>(1) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：序章 わたしを律する-抑制機能という視点から-)</p>		
<p>(2) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第1章 抑制機能の発達）</p>		
<p>(3) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第2章 抑制機能と社会的知性の発達）</p>		
<p>(4) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第3章 抑制機能と他者の行動）</p>		
<p>(5) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第4章 抑制機能と物理的刺激）</p>		
<p>(6) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第5章 抑制機能と文化）</p>		
<p>(7) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第6章 ヒト以外の動物における抑制機能）</p>		
<p>(8) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：第7章 抑制機能の発達の意義）</p>		
<p>(9) 『わたしを律するわたし』（テキスト1：ふりかえり）と発表分担(後半)の決定</p>		
<p><b>第6-10回目</b>：『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』（テキスト2）を学ぶ</p>		
<p>(1) 「5,6歳児の発達の特徴」（テキスト2：1 生活時間の変化と第3の世界の充実, 2 発達における3次元の認識, 3 厳密な比較と「転倒にもとづく対発生」, 4 生後3の新しい交流の手段の発生, 5 「ジブン」の誕生と自己形成視,(補)5,6歳の発達段階について, pp.9-38)</p>		

- (2) 「第3の世界へ：5歳前半の発達診断」(テキスト2：1 熱中の出会い,2 机上での課題,3 運動,社会性,言語,pp.39-114)
- (3) 「新しい力の誕生：5歳後半から6歳後半の発達診断」(テキスト2：1 乱暴,きたないことば,混同,2 机上での課題,3 運動,社会性,言語,自己形成視, 5歳から7歳未満の幼児の総合的検討,pp.115-228)
- (4) 「すこやかな発達のために」(テキスト2：1 育児で大切なこと,2 5歳児,6歳児健診を実施されるかたへ,3 障害の発見と対応について,pp.229-264)
- (5) 「あしがき」(テキスト2：pp.265-269), 幼児期の発達の階層(次元可逆操作期の階層) 幼児期Ⅲ-5歳・6歳ごろのふりかえり

#### テキスト

- (1) 森口佑介『わたしを律するわたし-こどもの抑制機能の発達-』(プリミエ・コレクション18) 京都大学学術出版会,2012年
- (3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断5：幼児期Ⅲ』大月書店,1988年

#### 参考書・ビデオなど

- (1) 田中昌人『人間発達の科学』青木書店,1980年
- (2) 田中昌人『人間発達の理論』青木書店,1987年
- (3) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』(1~8巻) DVD版,大月書店,2009年
- (4) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にもみる子どもたち』(1~6巻) DVD版,大月書店,2009年
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断3：幼児期Ⅱ』大月書店,1986年
- (6) 田中昌人『子どもの発達と健康教育②-「我しりそめし心」から「理しりそめし心のいとなみ」-』クリエイツかもがわ,1988年
- (7) 田中昌人『子どもの発達と健康教育③-「理しりそめし心」から「価値しりそめし心のいとなみ」-』クリエイツかもがわ,1988年
- (8) 田中昌人『講座発達保障への道〈1〉-児童福祉法施行20周年の証言-』全国障害者問題研究会出版部,1974年(復刻版,2006年)
- (9) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻-田中昌人の研究を引き継ぐ-』クリエイツかもがわ,2007年
- (10) 田中昌人『発達研究への志』あいゆうびい,1996年
- (11) 田中昌人『発達の土割』あいゆうびい,2001年
- (12) 中村隆一・渡部昭男(編著)『人間発達研究の創出と展開-田中昌人・田中杉恵の仕事をとおして歴史をつなぐ-』群青社,2015年
- (13) デ・ペ・エリコニン,天野幸子(訳)『遊びの心理学』新読書社,2002年
- (14) デ・ペ・エリコニン,駒林邦男(訳)『ソビエト・児童心理学-幼年期教育の基礎-』明治図書出版,1964年
- (15) レフ・セミヨーノヴィチ・ヴィゴツキー,神谷栄司(訳)『ごっこ遊びの世界-虚構場面の創造と乳幼児の発達-』法政出版,1989年
- (16) 瀬地山滯子『成長の記録 三才から六才へ:昌和たちの世界』日本放送出版協会
- (17) 畑谷光代『つたえあい保育の誕生』文化書房博文社,1970年
- (18) 海卓子『幼児の生活と教育(改訂版)』フレーベル館,1989年
- (19) 全国幼年教育研究協議会・集団づくり部会『求めあい 認めあい 支えあう子どもたち』かもがわ出版,2020年
- (20) 森口佑介『自分をコントロールする力-非認知スキルの心理学-』(講談社現代新書)講談社,2019年

(21) 本郷一夫(監修),森口佑介(編著)『自己制御の発達と支援』(シリーズ 支援のための発達心理学),金子書房,2018年

(22) 柳岡開地『子どもが行為を紡ぐとき－ルーティンの獲得と実行機能の発達心理学研究－』ナカニシヤ出版,2021年

#### **その他**

本コースは,レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや映画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中で関連文献や資料を紹介・配布する予定です。

コース名 発達研究の基本コース	2021年度回数 1回	担当者 木下孝司
<b>授業の内容</b> 発達診断と、保育・教育の専門性に基づいた子ども理解には、方法論の相違もありますが、子どもの内面世界を読み解き、その願いや悩みを再発見するという目標は共有されるものです。発達診断に実践的な視点を導入して、子ども理解を深めていくのに必要な発達研究の方法を確認して、受講者の皆さんが発達診断において工夫されていることを交流します。		
<b>授業の流れ</b> 9月25日（日） 1) 講義 心理学的子ども理解と実践的子ども理解の対話 13時～14時10分 心理学的子ども理解において、実践的な視点から条件変化を入れたりする必要性を述べます。 （休憩30分） 2) ゼミ 発達診断における私の試み 14時40分～16時 発達診断において、それぞれの方が実践されている発達検査の工夫や観察のポイントを事前に簡単なレポートにしてもらい、それを報告して、発達研究の方法論からコメントします。		

<p>コース名 発達診断方法論～臨床篇～コース</p>	<p>2021年度回数 5回</p>	<p>担当者 松島明日香</p>
<p><b>授業の概要</b></p> <p>発達診断方法論～臨床篇～コースは、実際に発達相談や教育相談に従事しようとする（あるいは、現にしている）人たちを対象にしています。受講にあたって、発達研究の基礎コースを受講しておられると理解がより深められると思います。</p> <p>本コースでは、主として発達の階層－段階理論に依拠しながら、子ども一人ひとりの発達を理解するための発達診断の方法論について事例を通して学んでいきます。子どもの発達は多様で、変化に富んでいます。それは魅力的である反面、発達理解において難しさを伴います。子どもの能力を「できる・できない」でとらえる単純化した評価方法や発達を数値化して標準値からの差によって評価する手法は簡便で分かりやすいという側面がある一方で、子どもの能力を機械的にとらえてしまうことで、本来、子どもがもっている発達の多様性や動態を把握できないという問題を抱えています。このことは、「子どもは発達の主体である」という大前提からかけ離れたところで子どもの育ちと実践が結び付けられてしまうという危険性をはらんでいるといえるでしょう。</p> <p>本コースでは、発達検査場面で見せる子どもの反応から、「できた」「できない」ということが発達の的に何を意味するのか、さらには子どもの“できかた”や“取り組みかた”をどのような視点でとらえることが大切かを学ぶことで、理論的根拠をもって発達診断や発達の子ども理解ができるようになることを目指します。加えて、発達の見立てが難しいという声が多々聞かれる自閉症スペクトラムなどの発達障害を抱える子どもの発達診断について、発達を診断するとはどういうことかについても考えていきます。</p> <p>授業はオンライン形式での受講であることを考慮し、講師が準備した事例をもとに受講者の皆さんとディスカッションしながら発達段階の特徴や発達診断のポイントをおさえていきたいと考えています。さらに、受講者の皆さんが発達診断において悩んでいることなども出していただきながら深めていく予定です。</p>		
<p><b>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p>第1回：発達診断の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 発達診断の歴史</li> <li>▪ 発達検査、知能検査の意味と限界</li> <li>▪ 発達の階層-段階理論と発達診断</li> </ul> <p>第2回：1次元可逆操作期（1歳半頃）の発達と発達診断</p> <p>第3回：2次元形成期（2,3歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第4回：2次元可逆操作期（4歳頃）の発達と発達診断</p> <p>第5回：3次元形成期（5,6歳頃）の発達と発達診断</p>		
<p>&lt;参考図書&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 白石正久・白石恵理子『教育と保育のための発達診断 新版 下巻』全障研出版部</li> <li>▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断3 幼児期Ⅰ』大月書店</li> <li>▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断4 幼児期Ⅱ』大月書店</li> <li>▪ 田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断5 幼児期Ⅲ』大月書店</li> <li>▪ 荒木穂積・松島明日香・中村隆一・竹内謙彰・富井奈菜実「新しい発達診断法開発プロジェクト報告資料集 幼児期における発達の基本構造の検出と発達診断上の留意点」</li> </ul>		

コース名 研究科	2021年10月～ 2023年10月	担当者 渡部昭男・田村和宏
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p>発達保障学校のコースを1コース以上受講した方が対象です。研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。メールと面談（スクーリング、2年で6回程度）で研究の計画策定と推進を支援します。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>開校式 指導教員（正・副）の委嘱、2年間のスケジュールの内定</p> <p>計画発表会（6か月目）</p> <p>中間発表会（12か月目）</p> <p>予備論文発表会（18か月目）</p> <p>査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）</p> <p>査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。研究科の申し込み締め切りは9月末です。</p>		

---

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email [j-ih63su@j-ihd.com](mailto:j-ih63su@j-ihd.com)

URL <http://www.j-ihd.com/>

---